

読売新聞 きょう（2月20日）のイチ押し

1面・3面 米中 気球問題譲らず 外交トップが会談

米国のブリンケン国務長官と中国外交トップの王毅共産党政治局員が18日、ドイツ・ミュンヘンで会談しました。米領空に侵入した中国の偵察用気球が撃墜されて以来、両氏が直接会談するのは初めてです。

- ★ ブリンケン氏は、気球の領空侵入を「米国の主権と国際法に対する侵害だ」と非難し、「米国はいかなる主権侵害に対しても我慢しない」と警告しました。
- ★ 中国外務省の発表では、「非公式の接触」として正式な会談と位置づけていません。王氏は撃墜について「強い不満と抗議」を示し、米側に対し、「米側がやり方を改め、武力を乱用して中米関係を損なっていることを直視し、解決する」ことを求めました。
- ★ 両政府は今後も意思疎通を続け対立をコントロールしていく構えですが、火種は多く、対立局面は今後も続きそうです。3面スクリーンで会談の意義と今後の課題を詳述しています。

社会面 接種電話 応答1%未満も 厚労省 管理徹底呼びかけ

人材派遣大手のパソナが、新型コロナウイルスワクチンの接種予約を受け付けるコールセンター業務を巡り、大阪府と兵庫県の3市に過大請求していた問題で、同府枚方市民向けのセンターでは、再委託先が電話対応できた割合が1%に満たない時間帯があったことがわかりました。（本紙の特ダネです）

- ★ 再委託先がオペレーターの人数を十分に配置していなかったため、問題が発覚した昨年11月1日当日のセンターの応答率（電話着信の件数に占める対応できた件数）をパソナが調べたところ、スタート時の午前9時からの10分間は0・96%、9時10分からの10分間はこの日最少の0・77%でした。午後2時台まで9%以下で推移していました。
- ★ 厚生労働省は、全国の自治体に対し、ワクチン接種業務で再委託が行われている場合、再委託先も含めて管理を徹底するよう通知しました。

他紙と比べて

原則月曜掲載の「就活ON!」（13ページ）は、大学生らの就活に役立つ情報が満載です。就活の悩みや疑問に専門家が答えるコーナー、若手社員の就活体験や就活時に書いた応募書類（ES）の内容を紹介するコーナーもあります。